

事務事業評価表 平成22年度

政策 安全で快適な都市生活の充実

施策 消防・救急の充実

基本事業 施策の総合推進

事業名 **消防車両整備事業**

[0377]

部名	消防	事業開始年度	- 年度	実施計画事業認定	非対象
課名	警防課	事業終了年度	- 年度	会計区分	一般会計

事務事業の目的と成果	
対象	<p>(誰、何に対して事業を行うのか)</p> <p>消防車両 救急車両</p>
意図	<p>(この事業によって対象をどのような状態にしたいのか)</p> <p>各種災害活動に安全かつ迅速に対応できるよう車両の性能を保持して、老朽化による不測の故障を防止し、活動が効率的に行えるようにする。</p>
	<p>(事務事業の内容、やり方、手段)</p> <p>消防自動車等の更新・整備目安に基づき、車両の機能維持及び更新整備を図る。</p>

事業量・コスト指標の推移						
区分		単位	19年度実績	20年度実績	21年度実績	22年度当初
対象指標1	消防車両数	台	25	25	25	25
対象指標2	救急車両数	台	4	4	4	4
活動指標1	消防車出動件数	件	598	498	602	580
活動指標2	救急車出動件数	件	3,639	3,599	3,601	3,800
成果指標1	更新台数	台	0	1	2	0
成果指標2	車両故障件数	件	79	65	72	80
単位コスト指標						
事業費計 (A)		千円	4,075	46,978	80,501	3,963
正職員人件費 (B)		千円	4,187	4,179	12,447	4,164
総事業費 (A) + (B)		千円	8,262	51,157	92,948	8,127

費用内訳	
21年度	備品購入費 80,501千円

事業を取り巻く環境変化

事業開始背景		事業を取り巻く環境変化	消防業務の市民サービス低下は、市民の生命、身体及び財産に直接影響を及ぼすものであり、迅速、効果的な消防活動を行うためには老朽化した消防車両を計画的に整備する必要がある。
--------	--	-------------	--

21年度の実績による事業課の評価（7月時点）

(1)税金を使って達成する目的（対象と意図）ですか？市の役割や守備範囲にあった目的ですか？

義務的事務事業

妥当である

妥当性が低い

理由
・
根拠は？

消防組織法、消防法及び消防力の整備指針の規定に基づき行っている。

(2)上位の基本事業への貢献度は大きいですか？

貢献度大きい

貢献度ふつう

貢献度小さい

基礎的事務事業

理由
・
根拠は？

消防組織法、消防法及び消防力の整備指針の規定に基づき行なっている基礎的事務事業である。

(3)計画どおりに成果はあがっていますか？計画どおりに成果がでていない理由、でていない理由は何ですか？

あがっている

どちらかといえばあがっている

あがらない

理由
・
根拠は？

車両の更新を計画的に進めているが、多額の費用が必要である。

(4)成果が向上する余地（可能性）は、ありますか？その理由は何ですか？

成果向上余地 大

成果向上余地 中

成果向上余地 小・なし

理由
・
根拠は？

整備を行うことで老朽化による不測の故障を防止し、災害に迅速かつ安全に使用でき、安全・安心な市民のニーズに効果が図られる。

(5)現状の成果を落とさずにコスト（予算＋所要時間）を削減する新たな方法はありませんか？（受益者負担含む）

ある

ない

理由
・
根拠は？

消防力の根幹をなす車両の配置については、消防力の整備指針により定められており消防活動上、車両の削減等新たな方法はない。